

議会報告と懇談会(報告)

平成25年7月14日
午前10時開会
3地区同時開催

各地区から寄せられた要望・提案を市長に提出しました。回答を簡潔にお知らせします。
議会への意見要望は、議会報告会に反映させていただきます。

◎会場：田沢湖総合開発センター 市民参加数 6名

要望・提案	回 答
大規模な山菜栽培を行うハウス内で木や草花、高山植物の植木を造り販売する	実施したい方がいれば相談に応じたい。行政としてどのような支援が必要か検討したい。
足湯を整備する	今春、田沢湖駅で実施したところ好評だった。10・1から始まるデスティネーションキャンペーンなどで実施予定。常設は関係機関と協議する。
田沢湖スキー場にジャンプ台を	田沢湖スキー場の優位性を生かし、県に対しジャンプ台を含めた施設整備を働きかける。
田沢湖からスキー場までロープウェイを整備する	検討していない。
後生掛から八幡平までの自然を生かした歩道を整備する	新設の歩道整備については、環境省、秋田県、鹿角市と協議したい。
観光協会の一歩化を図る各地域の観光から仙北市の観光となるように	平成23年6月各観光協会が築いてきた文化や財産を出し合って観光連盟設立。ポスターなどできるものから、予算を観光協会から観光連盟へ移行。各観光協会の事業が観光連盟事業となるよう各観光協会と協議したい。
スキー競技の全国大会誘致を進める	全日本スノーボードテクニカル選手権が今年度も田沢湖スキー場で開催される。2014フリースタイルスキーワールドカップモーグル競技が田沢湖スキー場で開催される。田沢湖スキー場の存在とウィンタースポーツエリアとして仙北市をアピールし国体スキー競技会やモーグル競技、スノーボード競技など全国規模の大会誘致に努める。
内陸線の存続は市民を巻き込んで良い案を考える	秋田内陸線に関する地域懇談会、秋田内陸線支援団体情報交換会が行われ、NPOや市民団体が一堂に会し情報交換をした。今後定期的に開催し、各団体の交流や支援ができていくと考える。

◎会場：中川集落センター 市民参加数 6名

要望・提案	回 答
空き家条例を活用し危険家屋を早急に撤去する	条例で定める行政代執行は所有者が勧告や命令に応じていただけない場合に行う。放置することで重大な危険があり、他者に危害が及ぶと判断された場合最終手段として実施。費用は所有者より出していた。
水源調査と生活水の確保を早急に実施する	水道未普及地域解消のため、9月中に電気探査による地下水の調査を行う。水源として有望箇所が特定された場合、井戸の掘削を行い水量や水質が確保できれば隣接する角館上水道または大場専用水道などと調整を図っていきたい。
相沢川(黒沢地区)を早期に改修する	河床部多量の土砂が堆積している。現地を確認したところ管理用道路が無いことなどから、冬期の州ざらいによる河床養生での予算化を考えている。
ゆぼぼ本館と温泉の通路(高さ制限)について	道路構造令の建設限界(普通道路4.50m→4.65m)を超えているため表示等の指導はしていない。
観光宣伝費を有効に活用し(業者のためだけでなく)もっと市民を巻き込むこと	観光宣伝は、日本全国に仙北市の名前を覚えてもらい観光客に来ていただくことによって観光産業が発展し雇用の場が増える。ホテル、旅館、飲食店に市内農産物を使用していただくシステムを作っていけば農家も潤うことになる。観光宣伝費は業者だけのものではなく市民のための予算と考えている。
内陸線本社を角館に移転させ、名称を秋田内陸観光鉄道にする。	角館駅を内陸線の始発駅と位置づけ、いかに角館の観光客を内陸線に呼び込めるか課題である。内陸線自体は地域公共交通の役割が本来の使命であり、94.2キロと非常に長い鉄道における事故対応などの危機管理の面から、本社はおよそ中間である現行の阿仁合付近が望ましいと考える。移転は莫大なコストも予想され現段階での移転は困難と考える。地域住民に密着した鉄道会社を目指している中で、定着している名称変更は慎重に取り扱う必要があると思う。
豪雨によりあがった河川敷のごみを撤去してほしい	松木内川河川公園(西木町)松木内川桜並木公園(角館町)が7月12~13日の豪雨により冠水した。景観上好ましくないので堆積物除去のための予算措置しお盆前には終えたい。

◎会場：雲沢集落センター 市民参加数3名

要望・提案	回 答
改善されていない通学路危険箇所の改修実施する	安心・安全を確保するため、児童生徒が立ち寄り通学するときに注意が必要な場所に、PTA等の協力を得て学校職員が現場を確認して、立ち入り禁止や付近を通行する際の注意点について、子どもたちに具体的な指導をしている。危険度が高く早急に対策が必要な箇所には柵や看板の設置をしている。危険な場所、対策が必要な場所の情報の提供をいただき、学校やPTAの方々、地域の方々とは相談しながらより安全な対策・対応を進めていきたい。
市道町屋線の大型車両通行止めの徹底を図る	安全確保のため公安への徹底指導を要請する。通学路改修は年次計画、軽微な補修は随時対応。
地域運営体で行う事業の見直しを図る	総会で承認された事業を地域の意見として交付金を交付している。昨年度「地域運営体」が実施する事業に関するガイドラインを策定し公共事業に関することは市が、それ以外のソフト事業に関しては地域運営体でとくくりをつけた。事業を強制するようなことは想定していないが、共通する除雪支援は、市が新たな制度設計したうえで地域運営体との関係を再構築する必要があると考える。市と2重行政にならないように注意しながら活動を支援していきたい。
企業誘致活動、雇用の場を確保する	県、県内市町村で組織した企業誘致推進協議会の活動に参加し首都圏等で誘致活動を続けている。
人口減少対策について	県外就職による流出も考えられるので、仙北市企業等連絡協議会に協力を得て就職面接試験対策講座を開催している。県及び市の雇用に関する助成制度を説明して高卒採用や新規雇用の拡大をお願いしている。

(平岡裕子 記)